

平成30年度病害虫発生予察指導情報

7月5日からの豪雨と梅雨明け後の気温上昇により注意が必要な病害虫について

平成30年7月11日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

7月5日からの記録的な豪雨と梅雨明け後の急激な気温の上昇により、農作物の病害虫の発生が懸念されているため、以下のとおり適切な対策を講じる。

2 気象情報

気象庁の発表によると、7月9日に梅雨明けしたとみられている。また、7月5日発表の気象1か月予報によると、期間の前半は平年と比べ気温がかなり高く、曇りや雨の日が少ないと予想されている。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されている。

3 発生に注意が必要な病害虫と対策

(1) イネ紋枯病

本病は高温多湿条件により発生が助長される。今後の発生に注意し、病害虫防除指針を参考にして適宜防除を行う。特に、防除効果が高い育苗箱施用剤を使用していないほ場や昨年本病が多発生したほ場では、注意が必要である。

(2) イネ白葉枯病

本病は浸冠水により発生が助長される。本病にはプロベナゾール(20%または24%)剤、イソチアニル剤等の育苗箱処理の効果が期待できる。これらの育苗箱施用剤を使用していないほ場において本病の発生が予想される場合は、直ちにオリゼメート粒剤等を散布する。防除上注意すべき事項は、病害虫防除指針を参考にする。

(3) ダイズ白絹病

本病は高温多湿条件により発生が助長される。病害虫防除指針を参考にして、適切な対策を行う。

(4) ダイズ黒根腐病

本病は土壌の多湿条件により発病が助長される。本病の防除対策には、ほ場排水を図ることが最も有効であるが、発病後の防除は困難である。

(5) ダイズ茎疫病

本病は土壌の多湿条件により発病が助長される。病害虫防除指針を参考にして、ほ場排水等の適切な対策を行う。

(6) ハダニ類(果樹・野菜共通)

ハダニ類の密度は、梅雨明け以後の高温乾燥条件下で急激に高まるので、ほ場の観察を徹底し、発生初期の防除に努める。防除上注意すべき事項は、平成30年度病害虫発生予報第5号(平成30年7月4日付)を参照する。

(7) ネギ白絹病・軟腐病

これらの病害は高温多湿条件下で発生が助長される。防除上注意すべき事項は、平成30年度病害虫発生予報第5号(平成30年7月4日付)を参照する。